



屏風山彫干支絵馬



完成した絵馬を手にする長内さん

電動糸鋸を自在に操り一枚の板から干支絵馬を作り続けるのは糸鋸工芸作家の長内正春さん（木造出来島）。青森ヒバの板から電動糸鋸を使って辰の頭や胴体など計10個のピースを切り抜きます。糸鋸台を微妙に傾けながら切ることでそれぞれのピースが凹凸に組み上がり一枚の板から立体的な辰が飛び出します。長内さんは「辰が幸せをもたらし世の中が明るくなることを願い作っています」と話していました。

三十三俵奉納



三新田神社に奉納される三十三俵

木作町内会（白戸英行会長）が12月18日、三新田神社に大しめ縄と三十三俵を奉納しました。同町内会の奉納は平成4年に復活して以来、今年で20回目。11月から製作した長さ約50^{cm}、重さ約350^gのしめ縄と三十三俵を取り付け、中央には干支の辰を描いた絵を飾り、つがる市登山囃子保存会が登山ばやしと下山ばやしを演奏して奉納を祝いました。

餅つきで交流

航空自衛隊車力分屯基地の餅つき大会に自衛隊、米軍関係者、近隣町内会、基地協力会など約100人が参加し、お互いに交流を深めました。始めに中村泰三基地指令が「餅を食べ英気を養い、辰年は元気な年にしましょう」とあいさつ。イングリッド少佐や基地協力会の秋田谷要蔵会長らがきねを振るい、参加者全員でつきたての餅を味わいました。その後、自衛隊と米軍関係者が特別養護老人ホーム「ゆうあいの里」と「安住の里」を訪れ、利用者に餅を贈りました。



餅つきを楽しむ参加者

笑顔の年に

平成元年以来、新年を彩る縁起物「門松」作りに取り組む木造菰槌のさとう農園（佐藤史成社長）。門松はクロマツ、青竹、梅の花をかたどったわら縄の結び目で松竹梅をあしらっています。竹は切り口が笑顔に見えるよう切りそろえられ、しめ飾りやナンテンなどの縁起物を取り付けて完成。佐藤さんは「新年はみんなで笑い合えるような良い年になってほしい」と話していました。



丹精を込めて作られる門松